

令和2年度 発達支援相談室活動報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(1) 発達相談

令和2年4月1日以降の新規受付件数は3件であった。令和2年4月1日以前からの引き継ぎケースと合わせると、本年度の総受付件数は43件であった。本年度については、前年度継続希望であったものの、本年度におけるコロナウイルス流行に伴いやむを得ず中断となったケースが複数存在しており、前年度の転帰における継続ケース数よりも少ない引継ぎケース数となっている。以降は継続となったケースについて報告する。

表1 受付件数

受付別	件数
新規受付ケース(令和2年4月以降新規受付)	5
引き継ぎケース(令和2年4月以前に受付)	38
合計	43

年齢別にみると、乳幼児が5人、児童32人、生徒(中学生)3人、生徒(高校生)1人、高校生以上が1人、成人が1人であった。このことから学齢期を中心に幅広い年齢層の発達に関わる相談を受けていることがわかる。

表2 年齢区分別

年齢区分	人数
乳幼児(就学前)	5
児童(小学生)	32
生徒(中学生)	3
生徒(高校生)	1
高校生以上(未成年)	1
成人	1
合計	43

相談内容別の件数は表3の通りであり、「発達障害」に関するものが41件と最も多く、全体の90%以上を占めている。

表3 相談内容別

主訴(相談内容)	件数
発達相談	41
ビジョントレーニング	2
合計	43

面接形態別相談件数は親単独面接が3件、親子並行面接(時間別並行面接を含む)が39件、個人面接が1件であった。

表4 面接形態別

面接形態	件数
親単独面接	3
親子並行面接(別時間並行面接を含む)	39
個人面接	1
合計	43

月別の面接およびプレイセラピー回数は表5の通りである。今年度はコロナウイルスの流行に伴い、10月中旬まで対面での相談活動を保護者面接に限定して行っていた。また、このような状況下で如何に支援を必要とする子どもや保護者にアプローチが可能であるかを模索し、zoomや電話を用いた遠隔での相談活動も並行して行ってきた。従って、対面での相談活動と遠隔での相談活動の件数を分けて表に示す。

表5 月別面接回数(本年度)

月毎	回数 (対面)	回数 (遠隔)	回数 (合計)
令和2年4月	1	1	2
令和2年5月	4	3	7
令和2年6月	11	11	22
令和2年7月	15	26	41
令和2年8月	10	13	23
令和2年9月	19	33	52
令和2年10月	34	24	58
令和2年11月	57	10	67

令和2年12月	48	12	60
令和3年1月	32	15	47
令和3年2月	56	10	66
令和3年3月	37	9	46
総面接回数	314	165	479

令和2年11月	2	4
令和2年12月	1	2
令和3年1月	0	0
令和3年2月	2	7
令和3年3月	0	0

転帰は継続が42件、終結が1件、中断となったケースは0件であった。

表6 転帰

区分	件数
継続	42
終結	1
中断	0
合計	43

(2) グループプレイセラピーの発達相談

発達障害の児童を対象にグループプレイセラピーを実施した。実施月と回数および参加児童数を表7にまとめる。1回当たりの平均参加児童数は3名であり、2～4名の範囲で変動した。今年度の実施期間は令和2年8月～令和3年2月までであった。グループプレイセラピーの実施に際し、グループ運営を飯塚一裕センター担当教員が、保護者支援を吉岡恒生センター担当教員がそれぞれ担当した。保護者支援は、グループプレイセラピーとは別時間に、特別専攻科現職派遣教員2名も参加して、9月から3月にかけて計5回、zoomにて実施した。また、協カスタッフとして学生相談スタッフ（特別支援学校教員養成課程および特別支援教育特別専攻科所属学生）11名がプレイセラピーを担当した。

表7 グループプレイセラピー実施回数

実施月	実施回数	参加児童数
令和2年4月	0	0
令和2年5月	0	0
令和2年6月	0	0
令和2年7月	0	0
令和2年8月	2	7
令和2年9月	2	8
令和2年10月	2	7